

(2) 企業誘致の推進

現状と課題

企業誘致の推進は、雇用の場の確保や地域経済の発展に果たす役割は大きく、また、本町でも高速交通体系の充実や光情報通信サービスが町内全域で整備されるなど、輸送・通信事情が大きく改善されていることから、立地環境を活かした積極的な企業誘致が求められています。

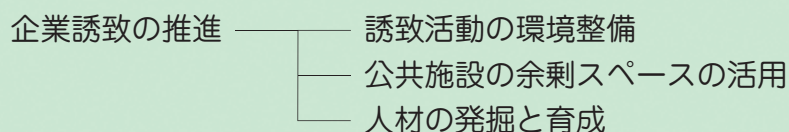
国内産業においては、ロボットやIoT、AIを活用した生産工程の合理化により、従来の製造業からIT関連などの先端技術分野への転換が進んでおり、今後は製造業のみならず、その他の業種にも対象を広げるとともに、遊休施設の活用による企業誘致を進める必要があります。

また、今後の企業誘致においては、人材確保を含めた総合的な立地環境をアピールするため、人材の発掘や育成を含めた戦略的な展開を行う必要があります。

計画の方向性

本町の立地環境や優遇制度、移住定住のための情報提供など積極的なPR活動を行い、県や企業、関係機関と連携しながら企業誘致を進めます。また、公共施設の余剰スペースを活用したサテライトオフィス等の誘致を図るとともに、中長期的な人材の発掘と育成に向けた取組を進めます。

施策の体系



施策の概要

①誘致活動の環境整備

- 本町の立地環境を活かし、新たな企業誘致に向けて優遇措置の構築や支援策の拡充を図ります。
- 企業誘致による移住定住の促進を図るため、子育てや住まいの情報提供など、総合的なPR活動に努めます。

②公共施設の余剰スペースの活用

- 廃校施設などの余剰スペースを活用し、サテライトオフィス等の企業誘致を推進します。

③人材の発掘と育成

- 中長期的視野での人材の発掘や育成に取り組むとともに、八代市などと連携した広域的な人材確保、育成を推進します。



芦北サテライトオフィス計石（旧計石小学校）

3. 地域が連携した魅力あふれる観光の振興

(1) 観光の振興

現状と課題

本町の観光は、夏期の海水浴シーズンを中心とする季節型観光が主力を占めており、観光客の大半が通過型や日帰り型となっています。

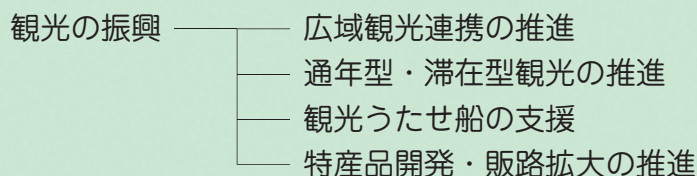
御立岬公園や芦北海浜総合公園などのレクリエーション施設をはじめ、観光うたせ船、温泉、佐敷城跡に代表される歴史資源、豊富な食材・特産品を揃えた道の駅など、様々な観光資源を有していますが、体験型観光やテーマ型観光が増え、旅行形態も個人・グループ旅行による短期間の観光が主流となるなど、観光ニーズも多様化・広域化している状況にあります。

本町の多彩な観光資源を有効に活用し、広域的な連携を深める中で、観光客のニーズに対応した観光ルートの設定や、外国人客に対するインバウンド対策、さらにはフットパスやSUPといった新たな観光資源を取り込み、複合的で魅力あふれる観光地の形成が求められています。

計画の方向性

本町の特性を活かした観光地としての魅力づくりを進め、組織体制等の充実、観光資源の整備、観光ネットワークによる観光ルートの形成を図り、通年型観光及び滞在型観光の推進や、SNS等を使った新たな情報発信の活用に努めます。また、県南フードバレー推進協議会等と連携し、温泉塩をはじめ地元の食材を利用した特産品の開発や販路拡大の取組を進めます。

施策の体系



施策の概要

①広域観光連携の推進

- 多様化する観光ニーズに対応するため、町観光協会や水俣・芦北観光応援社、県南 15 市町村による広域的な連携での観光ルートの開発を進めます。
- インバウンド対策やフットパス、S U P 等の新たな観光資源を活かした観光商品造成を推進します。
- ビーチサッカー・ビーチバレー・うたせマラソンをはじめとした各種イベント等を観光に結び付け、本町の観光振興を積極的に行い誘客に努めます。

②通年型・滞在型観光の推進

- 本町の地域特性を活かし、自然、歴史、文化、温泉、食、レクリエーション施設などの多彩な観光資源をネットワーク化させた観光ルートの開発を促進します。
- 高速交通網や肥薩おれんじ鉄道等を利用した観光ネットワークの形成による通年型・滞在型観光の開発を推進します。
- 既存の観光施設等の適正な維持管理に努め、健全な施設運営のための支援を行い、利用者の憩いと交流の場の提供を図ります。

③観光うたせ船の支援

- 観光うたせ船は、本町を代表する観光資源にとどまらず、文化財の面からも後世に残すべき重要な資源です。観光うたせ船の安定した供給ができるよう関係機関と連携し、保存や利用促進への取組を支援します。
- 観光経営の安定化に向けて、積極的な PR 活動等を図ります。

④特産品開発・販路拡大の推進

- 温泉塩をはじめ、本町にある豊かな食材を活かし、関係機関と連携し特産品の開発や販路拡大の推進を図ります。

第2節 地域で守り育てるまちづくり

1. 生涯健やかで心豊かな暮らしづくり

(1) 健康づくり活動の充実

現状と課題

本町の主な死因及び死亡割合をみると、悪性新生物（がん）、心疾患、脳血管疾患が約半数を占めています。乳幼児期からのより良い生活習慣の形成と健康づくりや食育の推進は、その後の生活習慣病等の疾病予防に大きく関係するため、乳幼児期から高齢期までのそれぞれのライフステージに合わせて継続的な取組を実践していくことが必要となっています。

町民が主体的に健康づくりに取組むようになるとともに、健康づくりを地域づくり活動の一環として位置づけた様々な取組を図ることが求められています。

計画の方向性

「芦北町健康づくり推進計画」に基づき、町民一人一人が、「自分の健康は自分で守る」の意識を持ち「生涯現役・健康寿命の延伸」を目指し、町民の健康状態に応じた健康づくりを推進します。

また、地域住民と関係機関、行政で組織する団体を中心に健康課題を共有し、町民活動としての健康なまちづくりを推進します。

施策の体系

健康づくり活動の充実 ——— 健康づくり活動の推進
啓発・予防活動の強化

施策の概要

①健康づくり活動の推進

- 地域住民、関係機関及び関係団体との連携を図り、地域、各種団体等の健康づくり活動を推進します。
- 市民の健康保持・増進のため、子どもから高齢者まで気軽に取り組める「あしきた健康体操」の全町的な普及を図ります。
- 身体的健康、こころの健康、生活習慣病の予防、たばこ・アルコール対策等のほか、健康づくりに関する総合的な活動を計画的に推進します。
- 保育施設や学校等と連携し、子どもの頃から適切な生活習慣の定着を図るための知識の普及啓発や健診、健康教育等を行い、生涯を通じた健康づくりを推進します。

②啓発・予防活動の強化

- 広報媒体を活用し、健康づくりに関する知識と理解を深めます。
- 町内医療機関と連携し、健康づくり事業や健康情報の周知を図ります。
- 健康フェアのさらなる充実を図り、実践を通して健康づくりへの知識の普及や取組を推進します。
- 予防接種を計画的に勧奨し、感染症予防を図ります。
- ゲートキーパーを養成し、自殺予防を図ります。
- 健康応援メニューを通して、学校・地域などで健康づくりを推進します。
- がん予防に関する知識の普及啓発に取り組めます。



あしきた健康フェア（あしきた健康体操の様子）

(2) 健診体制の充実

現状と課題

本町では健診結果を基に、町内医療機関と連携した生活習慣病予防や重症化予防を進めています。また、一部のがん検診については、医療機関で検診ができる体制を整え、がん検診の受診を推進しています。

しかし、高齢者の受診率は変わらないものの、若い世代の受診率が伸びないことや生活習慣病予防についての更なる意識啓発などが課題となっています。

このため、子どもの頃から生活習慣病についての意識啓発と、各種健診や保健指導の実施、受診勧奨などをさらに充実させていくことが求められています。

計画の方向性

若い世代からの意識啓発と効果的な受診勧奨を行い、医療機関と連携した生活習慣病の発症と重症化予防を進めていきます。

施策の体系

健診体制の充実 ——— 健診体制の強化
保健指導の強化

施策の概要

① 健診体制の強化

- 健診の受診の必要性について、様々な機会や媒体を活用して周知啓発を行い、基本健診とがん検診の受診を勧めます。
- 健診が受診しやすくなるよう、健診体制を強化します。

② 保健指導の強化

- 健診結果を基に、医療機関と連携した保健指導や健康教育等を行い、生活習慣病の発症と重症化予防に取り組めます。
- 要精密検査者に対して、健診機関と連携して精密検査の受診勧奨を行います。

(3) 医療環境の充実

現状と課題

少子高齢化の進行に伴い、山間部における地域医療は不可欠となっており、本町でも、高齢化率の高い吉尾地区の地域医療を支える拠点としての吉尾温泉診療所の役割は重要であり、今後もこの地域においての医療体制を継続していく必要があります。

また、町民の誰もが生涯にわたって安心して暮らしていけるよう、切れ目のないサービスの確保を目指し、医療・保健・福祉・介護の関係機関が連携して取り組む地域包括ケアシステムの構築が求められています。

計画の方向性

行政と医療機関等との連携を深め、医療・保健・福祉・介護が連携し地域医療の充実に努めます。

吉尾温泉診療所の医療体制の維持を図り、地域医療の充実に努めます。

また、国民健康保険財政の安定運営を図ります。

施策の体系



施策の概要

①地域医療の充実

- 医療・保健・福祉・介護の連携を強化し、切れ目のないサービスの提供を目指します。
- 吉尾温泉診療所は、医師の確保に努め、交通弱者のための患者送迎等地域に密着した医療体制を維持します。

②国民健康保険制度の充実

- 国民健康保険制度への理解促進のための啓発活動に努めます。
- 国民健康保険の財政運営の主体が県になりましたが、引き続き国民健康保険財政の健全化に努めます。

(4) 高齢者福祉の充実

現状と課題

令和元年4月現在、本町の高齢化率は43.0%と国、県より高い状況となっています。また、令和2年には高齢者人口がピークを迎え、その後、徐々に減少すると推計されていますが、一人暮らしの世帯や高齢者のみの世帯は年々増加が見込まれており、身寄りのない高齢者や孤独死などが問題となっています。

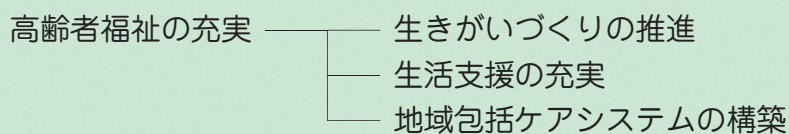
本町では「芦北町老人保健福祉計画・介護保険事業計画」に基づき、高齢者の自立支援や健康・生きがいのづくり、介護（予防）などのサービス等の充実を図り、生涯現役で活躍できる地域づくりを推進しています。

今後も、これまでの取組の成果を生かし、医療・保健・福祉・介護の関係機関が連携して取組む地域包括ケアシステムの構築を図りつつ、町民の誰もが生涯にわたり、安心して暮らせるよう切れ目のないサービスの確保を目指した体制づくりが求められています。

計画の方向性

高齢者が住み慣れた地域で、生涯にわたり安心して暮らせるよう、「芦北町老人保健福祉計画・介護保険事業計画」の推進を図り、関係機関が連携して地域包括ケアシステムの構築を進めます。

施策の体系



施策の概要

①生きがいつくりの推進

- 地域における高齢者の自主的な活動や日常生活における外出の促進を図り、高齢者の生きがいつくりと社会参加を支援します。
- シルバー人材センターなどの生涯現役で働く体制づくりを支援します。
- 節目の年を迎える町民の長寿を祝福し、敬老意識の高揚を図ります。
- 老人クラブにおける文化活動などの生きがいつくり活動の活発化を支援します。

②生活支援の充実

- 高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を送れるような日常生活の支援の充実を図ります。
- 地域包括支援センターが中心となり介護予防を推進し、重度化防止を図ります。
- 認知症予防を推進するため、認知症サポーター養成講座の開催やキャラバンメイト（講師役）の育成に努めます。

③地域包括ケアシステムの構築

- 介護保険制度の安定した運営を図ります。
- 住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を図ります。
- 「芦北町老人保健福祉計画・介護保険事業計画」に沿った計画的な施設整備を促進します。



本町の『地域包括ケアシステム』構築のイメージ